

# 萩ジオパーク推協だより

2018年11月29日 No. 45

〒758-8555 山口県萩市大字江向 510  
TEL : 0838-21-7765 FAX : 0838-25-7767  
e-mail : [geo@cityhagi.lg.jp](mailto:geo@cityhagi.lg.jp)  
HP : <http://www.cityhagi.lg.jp/site/hagigeo/>

発行：萩ジオパーク構想推進協議会  
事務局：萩市ジオパーク推進課  
Facebook: <https://www.facebook.com/HagiGeoProject>

## 地球の味に舌鼓！

### ～「ジオの食卓ー地球を食べる食堂ー」開催～

新たな萩の魅力となる食をテーマにした「萩・食の祭典」の一環で、「萩食談・ジオの食卓ー地球を食べる食堂」を開催しました。ゲストにタレントの勝俣州和さんをお迎えし、専門員の白井と萩の食材を味わいながら、萩の大地と食の魅力について語るイベントです。50名の方が参加され、会場である「口福の馳走屋梅乃葉」さん（須佐）で、萩のケンサキイカや糍、果物などを使った3品（萩のけんさきいかの糍漬けと野菜の糍漬け、萩のけんさきいか塩糍干しと緋扇貝の炙り焼き、梨のサラダ添え、須佐男命いかと甘ひしお）が振舞われました。

イベントに先立ち、須佐のイカ漁師さんや平山台の梨農家さんにご協力いただき、当日使われる食材と大地との関係について、事前に取材をさせていただきました。「須佐男命（みこと）いか」は、主に須佐の高山沖で獲られ、“瀬”と呼ばれる海底の高まりがある場所にイカがよく集まるという習性を熟知した漁師さんたちが、1本釣りで丁寧に釣り上げて生きたまま出荷します。

平山台の梨は、阿武火山群の一つの溶岩台地上で、緩やかな傾斜と粘土質の土壌を利用してつくられたものです。萩ならではの大地の成り立ちと、それと向き合って美味しい食を生み出してきた人々の努力の賜物に舌鼓を打ちました。

白井専門員からのパネルを使った解説で、美味しさの理由が良くわかったという声もいただきました。美味しい萩の食べものが、より一層美味しく感じられるお手伝いのできたのではないかと思います。

萩の食材の質の高さには、勝俣さんから太鼓判を押していただき、萩の食を全国に広めていく様々なご提案をしていただきました。日本中をまわっている勝俣さんならではの広い視野で、次々と飛び出すアイデアに会場は大いに盛り上がり、終始笑いが絶えませんでした。

今回は、勝俣さんをお迎えするスペシャルな企画でしたが、今後も地球目線で萩の食を味わう「地球を食べる食堂」を開催していきます。どうぞご期待ください。



【萩の食材について熱く語り合う勝俣さんと白井専門員】

## 【研修レポート】第9回日本ジオパーク全国大会 10/6~8 日本ジオパークネットワーク全国研修会 11/15~17

10月、11月と日本ジオパークネットワークの行事がありました。全国大会については前号でも報告しましたが、今回、研修会の報告と合わせて新たな視点でのレポートをお届けします。

### 【日本ジオパーク全国大会】

飛行機とバスを乗り継いで、半日以上かけて北海道様似に到着。駆け足で襟裳岬とアポイ岳ビジターセンターに行き、いよいよ出番のポスター発表。萩「ジオな教育」推進委員会の歩みを発表(説明)するというよりは、足を止めていただいた方と情報交換、意見交換をしました。次は、「大地と人とのつながりを楽しんだ」子どもたちが(私も)どのように成長しているかという話題で、全国の方と語り合いたいです。(むつみ中学校教諭：藤田 尚子)

アポイ岳ジオパークビジターセンターのエントランスに入ると、アポイ岳を中心とした巨大な鳥瞰図が迎えてくれます。その迫力に圧倒されました。中に入ると、「地球科学ゾーン」「自然・歴史・産業ゾーン」「アポイ岳ジオパークの地形模型」と色分けされ、写真や標本、模型などで様似のジオ・エコ・ヒトを学べるようになっています。中でも、アポイ岳周辺ではマントルの一部が変質することなく地表に現れたかんらん岩が観察できるということに興味をもちました。このかんらん岩は、ジオサイトの1つである旧オリビン採石場下の河原で採取できるということなので行ってみました。河原の降り口に、ジオサイト紹介マップに対応した番号の案内板が設置しており、迷うことなくたどり着くことができました。採取したかんらん岩は、薄片と研磨標本にして、各学校で活用できる教材として提供したいと考えています。(須佐中学校教諭：伊達 千絵)

### 【日本ジオパークネットワーク全国研修会】

私は理科教員として研修会に参加させていただきました。研修会では現状の「まちづくり」にどのように「ジオ」を絡め、活性化を図ることができるかをグループで話し合い、プレゼンを行いました。各グループは事務局、専門員、観光関係者、ガイドなど様々。いろいろな視点からのアイデアが活発に飛び交いました。区長さんのまちづくりに対する熱い思い、そして「地域住民全員がNPO法人まちづくりの会の会員」ということに研修参加者全員が驚き、感動したことを覚えています。交流会では、全国のジオパークの活動だけでなく、小・中・高校とジオパーク活動の取組について情報交換をしたり、はぎジオカフェと中継したり(笑)、また、多くの方と萩トークができてとても嬉しかったです。3日目のジオツアーも貴重な体験をさせてもらいました。この度の研修で得たものを皆様にもフィードバックしていきたいと思っております！(萩光塩学院中・高等学校教諭：都志見 有希)

11月15日(木)~16日(金)、恐竜渓谷ふくい勝山ジオパークを会場に、第12回JGN全国研修会が開催されました。今回のテーマは「地域住民を巻き込んだ活動の活性化」。参加者は3コースに分かれ、勝山市のまちづくり団体の活動を見学、現状の課題を模索して活動の活性化・改善を図ることができるように考えました。私は国史跡白山平泉寺の旧境内を中心に環境整備や、来訪者のおもてなしをしている平泉寺区の説明を受けました。課題としてあげられたのは、担い手・後継者不足、観光地として整備・情報発信不足、魅力・ストーリーの構築不足など、多くの地域に共通してみられるものばかり…。グループワークでは「子どもも学校ももっと巻き込んで!」「ガイドと住民が積極的に意見をお互いにかかわる場を!」など、各参加者の地域と重なる課題等も多いこともあり、積極的な議論が展開されました。住民やガイド、行政にジオパーク、大人から子どもまで。あらゆる立場、幅広い世代を“繋ぐ”ことが、地域としてもジオパークとしても重要な一歩なのだ気づかされた研修になりました。(事務局：肌野 美伶)



〔子どもたちと一緒に  
体験プログラムに参加〕



〔サイズに圧倒される鳥瞰図〕



〔ワークショップの様子〕



## 萩ふるさとまつりで「萩ジオパーク」の面白さを発信！！

11/10 (土) ~11 (日)

11月10日(土)・11日(日)の2日間、第14回萩ふるさとまつりが行われ、私たち萩ジオパーク構想推進協議会も、毎年恒例となったPRブースを出展しました。今年は、明治維新150年を記念して、薩長同盟でおなじみ鹿児島から桜島・錦江湾ジオパークの有田学術推進員をお招きして、桜島・錦江湾ジオパークと萩ジオパーク合同(マグマネットワーク)紹介コーナーを展開し、多くの来場者に「元気なマグマ(桜島)」と「ゆる〜いマグマ(阿武火山群)」の大地を楽しんでもらいました。狭いブース内でも、両ジオパークのパネル展示を使ったクイズラリーやお弁当パックの蓋を使った立体模型作り、立体メガネで萩の大地を覗いてもらったり、とれたて(?)桜島の火山灰を持って帰ってもらったりと盛りだくさんのイベントを行いました。



【萩ふるさとまつりの様子】

両日とも、日頃から萩ジオパークの活動に関わってもらっているジオプランナーやジオ友の会の皆さんのお手伝いもあって、2日間合わせて400名以上の来訪者に楽しんでもらえました。

## 佐々並カルデラを楽しむ

～萩ジオアカデミー(第4回)「大陸の巨大火成活動」を終えて～

11/23(金・祝)

私は今年のジオマスター講座を受講した際、「こういう講座が佐々並でも開催されたらなあ」とは思っていたが、今岡山口大学名誉教授による萩ジオアカデミー講座(第4回)が、まさかの佐々並での開催となりました。このことを聞いたとき嬉しさの反面、「巡検スポットとなる見どころが無いのでは…」という不安もありました。

しかし、今岡先生との下見を重ね、無事4箇所の巡検場所が見つかり、ツアーを組むことができました。下見の際には、先生の行動力と岩石鑑定力に驚きました。ピックハンマーで岩石を割り、肉眼鑑定をされ、「ここはカルデラの外に出ちゃってるねー」と一言。これはもはや『神業』です。私には石の表面をみただけでは分かりませんが、先生は佐々並カルデラの内側か外側かが分かるのです! 11月23日(金)に開かれた今回の講座は、地元の私からしたら、ふだん何気なく通る見慣れた景色でもありましたが、翌日からは違った角度や視点で風景を楽しむことができました。佐々並カルデラを楽しむ。故郷の大地は、例えみんなが一目で感動、圧倒される見どころとなる場所が無くても、いろいろな形でジオを楽しめそうです。

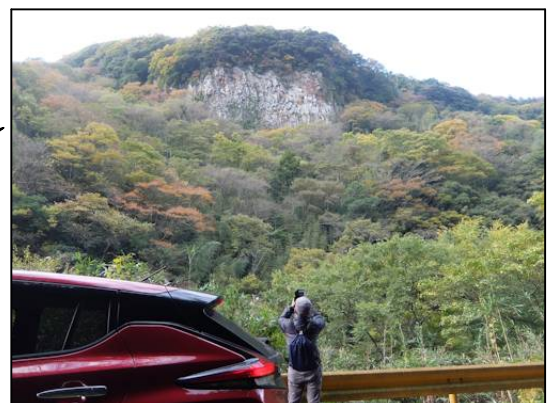


【説明に聞き入る参加者の皆さん】

(佐々並カルデラを楽しむ会 会長(萩ジオマスター) 山根 啓二)

## ジオ・カメラ散歩

ジオとも11月定例会で大井川源流を遡りました。途中、羽賀台の柱状節理が見えます。  
(ジオとも:中西)



## ジオ研修会 山口市阿東地域で開催

11/1(木)・26(月)

11月1日(木)午前・午後の2回に分けて、山口市阿東総合支所において、支所職員向けジオパーク研修会が開催され、業務の合間を縫って35名もの職員の方が参加されました。白井専門員によるジオパークによる地域の描き方、ジオパークを地域づくりにどう活かしていくか、これまでの室戸ユネスコ世界ジオパークや萩の取組を紹介したところ、「目から鱗」の状態だったようで、関心を持っていただけました。長門峡だけでなく、阿東地域全体で取り組むべきだと、26日に予定されていた長門峡のある篠生地区住民向け説明会を地域全体に案内しようと、即断されました。



〔11月1日阿東総合支所職員研修〕

11月26日(月)午後1時30分からの住民対象説明会には、市職員も含め35名の方が参加されました。18席しか用意されていなかったため、急遽追加で机いすを出す形に。伊藤事務局員の説明の後、参加者から活発な意見、質問が出てきました。ジオパークに認定されたことで地域にどんなメリットがあるのか、先進ジオパークでの事例を知りたい、国から補助金等あるのか、専任職員数は、交流人口を増やす手立てとしてどう考えたらいいのか、等々。環境問題(交流人口増によるゴミ問題)についての指摘では、昨年度NPOあとうの皆さんと行った長門峡ウォーキングの際にゴミ拾いを行ったことを紹介、ジオパークの取組は全世界で取り組んでいるSDGsに繋がるという話を中村事務局員が行って終了しました。

## 萩ジオさんぽ第9話の撮影がありました

(弥富地域)

萩ケーブルネットワークの自主番組「萩ジオさんぽ～下を向いて歩こう～」の第8話の撮影が、11月8日(木)に行われました。今回の舞台は弥富を中心とする「龍が通った道」。ゲストに弥富小学校の6年生を迎えて、壘ヶ淵やイラオ火山灰層観察施設などをめぐりました。

今回のテーマは「龍が通った恵みの大地?!」。龍が通った道の謎とそれがもたらした恵みを求めて歩きました。岩石の特徴を見抜くゲストの小学生たちの自然観察力には脱帽でした。是非、ご覧ください。

〈放送日程〉 月：10：00～10：15 火・金・日：20：30～20：45 水・土：14：45～15：00 日：8：45～9：00

## 12月の予定

- 萩ジオアカデミー(第5回) 12月8日(土) 10：00～15：00 会場：弥富公民館、伊良尾山周辺 内容：萩の大地の成り立ち⑤ 「龍が通った道」(講師：清杉孝司・神戸大学助教) 参加費：1,000円(保険料、昼食代込) 定員：40名 申込期限：11月30日(金) 主催：萩ジオパーク構想推進協議会 問合せ：事務局(萩市ジオパーク推進課)(0838-21-7765)
- 萩図書館講演会「萩の大地から世界の自然をみる」 12月15日(土) 10：30～12：00 会場：萩図書館2階 内容：NHK「ダーウィンが来た！」などの自然番組を多数制作するテレビディレクターの松林 明さんによる講演。申込不要、先着30名まで 主催：萩市立萩図書館 問合せ：萩市立萩図書館(0838-25-6355)
- geoとも(萩ジオ友の会)定例会「座学」 12月15日(土) 13：00～16：00 会場：萩・明倫学舎復元教室 内容：これまでの活動を振り返り、語らう。参加費：100円 主催：geoとも 問合せ：萩市ジオパーク推進課(0838-21-7765)
- シンポジウム：持続可能性の視点から考えたジオツーリズム 12月15日(土) 13：00～15：00 会場：山口大学秋吉台アカデミックセンター(美祢市立秋吉台科学博物館内) 趣旨：セッションでは、国内外におけるジオツーリズムに関する研究取り組み・実践事例を紹介し、ジオパーク活動の中でジオツーリズムの位置付けや地域の持続可能性につながる課題について、議論を提供する 主催：山口大学秋吉台アカデミックセンター、山口大学経済学部 問合せ：山口大学経済学部 朝水宗彦教授(masamizu@yamaguchi-u.ac.jp)
- はぎジオカフェ 12月20日(木) 18：30～20：00 会場：萩・元気食堂、参加費：200円(飲み物代は別途)、主催：萩ジオパーク構想推進協議会 申込み：前日までに萩ジオパーク構想推進協議会事務局(萩市ジオパーク推進課)(0838-21-7765) ※全国のジオパークからお菓子をお取り寄せ。次回の相手は・・・。

※ ●の行事に参加される場合は、必ず萩ジオパーク事務局(0838-21-7765)までご連絡ください。